

ビジネスの危機を

転機として(上)

小林功治／里佳

長野県豊丘村(飯田市近郊)で林業を営む小林功治さん里佳さんご夫婦は、数年前に東京で開かれた、F F J主催「性教育アブステナンス・セミナー」に4人の娘さんとともに参加されていた。家族で到着されるやいなや感謝の祈りをささげ、セミナーの始まる前、食前の祈りはもちろんセミナーが終わった後も感謝して祈る。とにかく良く祈る姿がとても印象的な家族だった。

その小林さん一家を取材すべく、秋の夕べに編集者をご家庭にお邪魔して話を聞いた。

●ビジネスの危機

小林家は、4代のご夫妻と子どもたちが、

麻里奈(まりな19)、
由梨奈(ゆりな15)、
杏奈(あんな12)、そして
恵里奈(えりな6)
という4人娘の6人家族。

栃木県出身の功治さんと、京都出身の里佳さんが、どのようにして長野県の山

間部に住むようになったのか。また、どのようにイエス・キリストを信じる家族になったのか。

それは、バブルのはじけたころ、功治さんがお兄さんと栃木の地元で始めたビジネスが、結婚直後に立ち行かなくなっ

●思いがけない配剤

結婚して移り住んだ栃木でできた里佳さんの知人の多くがクリスチャンだった。

まず、パッチワーク教室の先生。結婚祝いにもらっていた星野富弘さんの本のみことばの感想を話すと、

「里佳さんって、つくづく神さまに愛されていると思うのよね。前々から私が里佳さんに引き合わせたいと思っていたのは、その星野さんの主治医の奥様なのですよ」

と言われ、その本が急に身近になった。ご主人のビジネスの危機の中で里佳さんの心の支えになったのは、次のみことばだった。

「あなたがたの合った試験はみんな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試験に会わせるようなことはなさいません。

むしろ、耐えることのできるように、

試験とともに、脱出の道を備えてく
ださいます」(コリント人への手紙第
一10章13節)

パッチワークの先生から、「教会の先生に会ってみたい?」と聞かれたとき、法律的な助けを求めていたので、てっきりそういう専門家の方と早とちりをして、わらをもつかむ思いで行った教会で、牧師に心の重荷を聞いてもらい、その場でイエスさまを信じると告白をした。

里佳 先生は、私が涙ながらに話すのを聞いて、「大変な思いをされましたね。あなたのつらさを背負ってくれる人がいたとしたら、お願いしたいですか」と聞かれたのです。

私は、てっきり弁護士さんかだれかを紹介してくれるものと、またまた勘違いして「ぜひ、お願いしたいです」と答えました。

「それは、イエスさまです」と言われて、私は鳩が豆鉄砲食らったような顔で、心の中で「どうせなら生きている人のほうがいいんだけど……」(笑い)とその時は思いました。

でも、「イエスさまは、あなたの人生を変えてくれる方です」と言われ、「信じます」と私は答えました。

パッチワークの先生は「よかった、よかった」と喜んでくれるのだが、経済的

法律的な問題は何一つ片付いたわけではない。自分に何が起きたのかが分かるのは、それからまだ何年も先のことになる。

●長野県に移住

初めて教会に行ってから1ヶ月もしないうちに、長野県に来る道が開かれた。二人姉妹の長女である里佳さんが、京都にいる両親の元に帰りやすい場所の一つとして選んだのが、栃木と京都の間地点である長野県だ。

功治さんの就職を世話してくれる人も現れ、1ターナー向けに用意された新築の雇用促進住宅に運良く入居することができた。長女の麻里奈ちゃんも生まれてきた。

里佳さんの独身時代の職業は、ファッションデザイナーだったが、飯田地方でデザイン関係の仕事を見つけることは困難だった。

ところが、育児の合間をぬって作りためたツールペイント作品の個展を開いたら、「教室を開いてください」という依頼が舞い込み、その生徒さんのひとりから、牧師が来て教える家庭集会への誘いを受けた。それが、今も通う飯田馬場町教会東中央グレースチャペルの赤羽章牧師だった。(以下略)